

早稲田大学インクルーシブ教育学会

ニューズレター

2020年（令和2年度） NO.3

第5回研修会 2020年11月22日（日）

「実行機能」という視点からの支援の実際 ～整理整頓や忘れ物、有効な時間の使い方の支援

【講師】 特定非営利活動法人 フトワークLD 発達相談センターかながわ所長

安住 ゆう子 氏

提出しなければいけないプリントを無くしてしまったり、学習用具が揃わなかったりなど、学習以前のことに課題が大きい児童・生徒への支援に苦勞することが多いのではないのでしょうか。「片づけ方」や「作業の手順」などを示しても特別なニーズがある児童・生徒には改善を見られないことが学校現場では多々あります。片づけることや忘れ物をしないことの大切さは分かっているのにどうして変わらないのだろう・・・？

そこで、今回の研修会では安住ゆう子先生をお招きして、「実行機能」という視点から自立に必要な力「ライフ・スキル」を獲得するための取り組みや支援について学ぶことにしました。

実行機能とは？

実行機能とは、問題を解決する時に、知覚・認知・行動・感情を管理し、コントロールして方向付けする力です。

実行機能のモデルとして、（1）ワーキングメモリモデル （2）Zelazoらのモデル （3）Miyakeらのモデル （4）McCloskeyのモデル、実行機能の評価方法として「ウイスコンシンカード」「Day/Night 課題」「ハノイの塔検査」を紹介していただきました。

実行機能は以下のような機能に分けて考えられ、どこに困難があるのかを知ることが重要になってきます。

10の視点で考える実行機能

- ①（自分でできる）プランニング
- ②優先順位
- ③時間管理
- ④空間や情報の管理
- ⑤SOSを出す
- ⑥忘れない工夫
- ⑦モニタリング（行動確認）
- ⑧シフティング（柔軟性）
- ⑨開始と持続
- ⑩コントロール

<ワーク1> 解決したい行動を10の実行機能の視点から分析してみよう！

「来週の月曜日の総合の時間に、『お父さんの仕事について』のインタビューのレポートを提出する。」

- ・いつ、インタビューをするかを決める。 → ①プランニング
- ・何をインタビューするか分かっている。 →④空間や情報の管理
- ・お父さんに宿題のことを伝える。 →⑥忘れない工夫
- ・帰宅が遅いお父さんだったら、どのような手段で伝えるかを考える。 →⑧シフティング（柔軟性）
- ・どの紙にどのような形式でまとめるかが分かっている。 →④空間や情報の管理
- ・インタビューで聞いたことを書き取り、文章にする。 →④空間や情報の管理
- ・書き間違いがないか見直す。 →⑦モニタリング（行動確認）
- ・忘れずに月曜日に提出する。 →⑥忘れない工夫

課題を解決するまでに、
複数の能力が必要！

指導の実際

環境調整：目標を達成しやすいように周囲を変える

本人の変化：自身が達成しやすい方法、
学び方を知り、身に着ける

年齢、発達段階、困難さの度合い、本人の意識によって両者の配分は変わるし、同じ支援に見えても児童・生徒の意識によっても変わるので、常に効果を確認めながら進めることも重要です。また、教科学習（アカデミックスキル）を行う以前の技能であるスタディスキル（授業開始時に着席できる。学習用具が揃えられる。など）の指導実践についてもご紹介いただきました。その中でも援助要請がスムーズにできるような練習や成功体験を積み重ねていけるようなエラーレス支援の大切さをご指導いただきました。

演習と実践紹介

<ワーク2> では、自分で計画を立てるのが苦手、あちらこちらに興味が移ってしまうケースについて意見交換を行いました。また、身につけさせたい能力に応じた支援方法もご紹介いただきました。

参加者の皆様の声（アンケートから）

- 有名な研究から最新の研究まで先行研究を紹介いただき、さらには具体的な支援策まで紹介していただいた。具体的に生徒をイメージしながら聞いていたため、その生徒に必要な支援が具体的にイメージできた。
- 生徒の言動の理解にとっても役立つ具体的な内容でした。10の視点も大切ですが、その生徒の過去、現在、将来についての支援、指導が必要と考えます。
- その子どもにとって10のアイテムの中のどこにターゲットを置いてアプローチをして行ったらよいかを考えてみたいと思います。それも、やはり土台になるのはアセスメントだなあと改めて思いました。
- 10個のアイテムは、実行機能を深く理解する上で役に立ちました。特に高橋先生も言われたように、援助要請スキルについては、現代の日本において重要だと感じました。
- 安住先生が最後におっしゃった、「できないことに目を向けるのではなく、その人のもつ特性、弱い機能がなんであるのかというところへ目を向けることが大切です。」が心に残り、早速実行しようと思いました。

その他にもたくさんのご意見をいただきました。ありがとうございました。

今年度 Zoom を活用して研修会を開催したことで、遠方であったり、時間を取りにくかったりという理由から、普段参加が難しい方から、「参加しやすい。」という、嬉しいご意見も頂戴しています。

参加者の皆さん、児童・生徒の実行機能をステップアップするには、継続的な支援や指導を行うことが重要であることを実感し、日々、様々な取り組みをなさっていることでしょう。現在関わっているお子さんを思い浮かべながら安住先生のお話を伺っていたという感想をたくさんいただきました。

今回、安住先生のご講演を受け、更に支援や指導の方法が増え、今後への意欲を高めたというご意見もたくさんありました。安住先生から後日いただいた資料には、支援策を成功させる秘訣として、「余裕と非日常の取り入れ」がありました。この言葉は支援を受ける児童・生徒に対してだけでなく、私たち支援者、指導者にも必要なことでしょう。安住先生から更なる励ましのお言葉をいただいたように感じました。